

慈恩寺 Times

第八号

【発行】

慈恩寺国史跡指定推進委員会

【発行日】

平成26年2月20日(木)

【問合せ・ご意見等】

寒河江市 生涯学習課歴史文化係

TEL:0237-86-8231

E-mail:shogaku@city.sagae.yamagata.jp

1/29 国史跡指定意見具申書を文化庁へ提出

慈恩寺については、平成21年度の第1回慈恩寺シンポジウムの開催に始まり、22年度に37名の関係者からなる国史跡指定推進委員会を組織し、翌23年度から調査検討委員会による調査研究を実施し、今回、総合報告書がまとまりました。

本山慈恩寺はじめ、地域の皆さん、そして予定区域内の地権者の皆さんのご理解、ご協力を得て、去る1月29日、慈恩寺国史跡指定にかかる意見具申書を文化庁に提出することができました。

具申は、現在の本堂境内に加え、明治時代以前に境内として広大に認められていた部分も範囲に含め、名称を「慈恩寺旧境内」として提出しました。



国史跡指定意見具申書

— 中世慈恩寺の姿に迫る —



意見交換会の様子

(写真左より三上准教授、上川教授、宇井文化財保護委員長)

さなどから慈恩寺の歴史に加え当時の社会や信仰を知る貴重な史料であるとお話されました。参加者は興味深い話に熱心に耳を傾けていました。

2月8日(土)市文化センター中公ホールを会場に慈恩寺行事研究会が約一三〇名の参加者を得て開催されました。今回は、未だ謎の多い中世(鎌倉・室町期)の慈恩寺の姿に迫るべく2人の専門家をゲストに講演及び意見交換会を行いました。

愛知県立大学の上川通夫教授からは、愛知県豊橋市の普門寺を例にお話をいただきました。普門寺は、8世紀に行基が建立したと伝えられる山寺であり、山内には院坊屋敷地と考えられる約二百ヶ所もの平場を有し、慈恩寺と似た性格を持つ寺院と考えられます。里山に寺域を展開し、里人と密接なつながりを持ち、僧侶と里人が協力して仏事を行っていたようです。慈恩寺においては研究の余地があります。中世慈恩寺を知る一つの視点が示されました。

山形大学の三上喜孝准教授は、慈恩寺仏堂内の中近世の落書について、その種類の豊富

慈恩寺国史跡
指定までの道程

達成

- ・学術的裏付け調査
- ・総合報告書作成作業

- ・指定予定地確定

- ・指定予定地内
地権者同意

- ・総合報告書
完成

- ・文化庁へ
指定具申書提出

- ・文化庁が
文化審議会諮問



醍醐小6年生作

— 醍醐歴史ジオラマ —



醍醐歴史ジオラマ (80cm×200cm)

上写真：ジオラマ全体像 右写真：ジオラマ拡大写真

醍醐小学校の6年生が、慈恩寺の所在する醍醐地区の歴史を紹介するジオラマを制作しました。昨年4月から総合的な学習の時間を活用し、聞き取り調査等を行いながら、9月から制作をはじめました。発泡スチロールや紙粘土等を使用し、醍醐地区に所在する文化財や、昔の景観を再現しています。現在では分からなくなった建物や古墳の形など調査を通して苦労し再現した力作です。醍醐小学校にて公開しております。

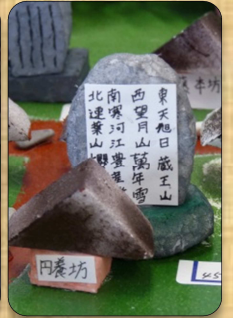
問合せ：寒河江市立醍醐小学校
☎0237-87-1023



よだれ地藏



日和田弥重郎花笠田植踊



詩碑

第60回文化財防火デーに合わせ、1月26日に慈恩寺で消防訓練が行われました。一度火災が起これば一瞬にして文化財は失われます。火の取扱いには十分注意しましょう。

慈恩寺を火災から守れ!

— 慈恩寺消防訓練 —

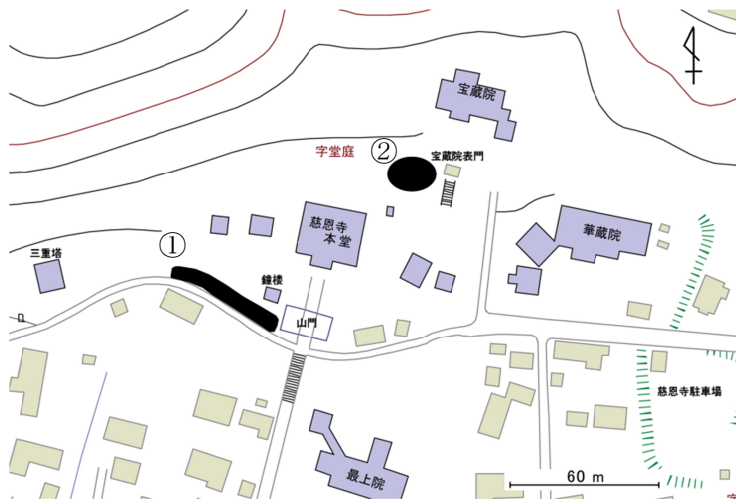


▲市長に提言する大沼保義委員長(左から2人目)と那須孝可副委員長

2月12日に「慈恩寺『悠久の魅力』向上基本計画検討委員会」(委員長・大沼保義市商工会長)が基本計画をまとめ、市長に提言。慈恩寺活性化策が提案されました。
◆問合せ 市政推進課 ☎0237-86-2111

慈恩寺「悠久の魅力」向上基本計画を提言

【慈恩寺斜面補修工事】



昨年7月の豪雨災害で崩れた斜面の補修工事を行っています。

◆工事箇所

- ①三重塔東側階段下～鐘楼下の斜面
- ②宝蔵院表門西側斜面

◆工事期間 3月末日まで(予定)

お近くを通る際は十分気を付けてください。

◀ 斜面工事箇所位置図(黒塗部分)